

[派遣]

派遣研究者 島根大学 総合理工学部 数理・情報システム学科 助手 野村 収作 1062104

研究集会名 2006 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC2006)

(IEEE Systems, Man, and Cybernetics Society)

出張期間 平成18年10月8日 ~ 13日

開催場所 中華民国 台北市

発表論文 唾液中の免疫物質指標によるデスクワークストレス予測システムの研究

(Prediction of Deskwork Stress with Visual Display Terminal by Human Immune Substance in Saliva )

概要

当会議は、米国最大の工学系学会であるIEEEの一部会である「System, Man, and Cybernetics Society」主催の年次大会である。一部会の大会とはいえ、世界45カ国から1304件の論文(採択率70%)が発表され数千人が参加した。ヒューマン・マシン・インターフェースに重きを置いた大会ではあるが、その他にもインテリジェントシステム、ファジー、パターン処理、バイオインフォマティクス等幅広い分野で発表がなされた。

筆者は、「Human-Machine-System」セッションにおいて、「唾液中の生体内分泌物質によるPC作業ストレスレベルの評価」およびその応用研究として「ストレス生体反応モデルによるPC作業ストレス予測システムの研究」について発表を行った。この研究は、生体情報の中で生体内に分泌される各種ホルモンや免疫物質を心的ストレス評価指標として活用する研究であり、当会議においても唯一の研究手法・テーマであった。実際、発表時において多くの参加者に興味を持って頂いたと実感できたが、「どのような仕組み・装置で生体内の各物質を定量するのか」といった研究手法についての技術的な質問が多く寄せられた。その他、大会中の他のセッションや懇親会に参加し、脳波や心拍音等の従来の人間-機械インターフェースで数多く採られてきた生体情報を用いた工学研究を行っている研究者と議論する機会を得たが、その多くの方にとって本研究は新しい手法と受け入れられ、その議論の中で自分自身にとっても、本研究の世界的な位置付けや将来の方向性について実質的な知見を得ることができた。